

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-82178

(43) 公開日 平成8年(1996)3月26日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

E 0 6 C 7/18

E 0 4 G 1/30

3/08

E 0 6 C 1/34

1/383

B

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平6-213351

(22) 出願日

平成6年(1994)9月7日

(71) 出願人 593161766

マキ工業株式会社

大阪府寝屋川市大字高宮652番地の23

(71) 出願人 592130194

大月 周耀

埼玉県大宮市宮原町1-184-23ラミュ大

宮ハイライズ1-515

(72) 発明者 大月 周耀

埼玉県大宮市宮原町1-184-23 ラミュ

大宮ハイ ライズ1-515

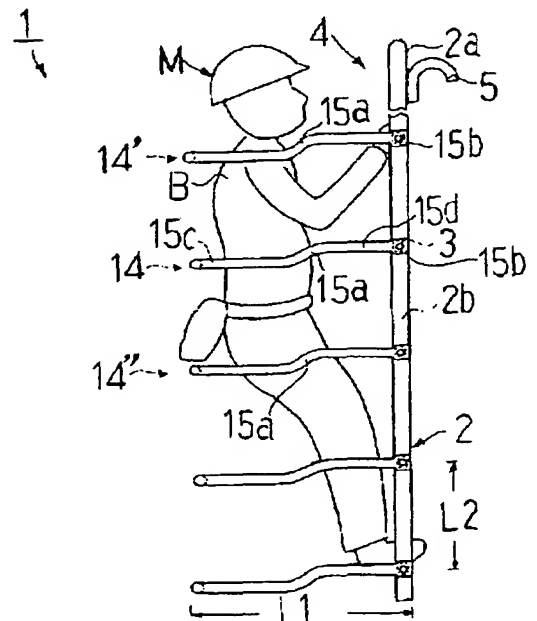
(74) 代理人 弁理士 江原 省吾 (外2名)

(54) 【発明の名称】 折り畳み式の支持フレームを有するタラップ

(57) 【要約】

【目的】 支持フレーム同士を干渉させることなく、タラップ本体にコンパクトに収納する。

【構成】 互いに対向した一対の柱材2を、踏み段となる複数本の横材3によって連結してタラップ本体4とする。一対の柱材2の外側面2bに回動自在に支持フレーム14を取付ける。支持フレーム14は、柱材2に対して直角に張り出させた使用位置とタラップ本体4と重なる収納位置との間を移動可能で、使用位置ではタラップ1の昇降領域を囲繞する。支持フレーム14は柱材2の長手方向に沿って所定間隔で複数配設され、かつ支持フレーム14の張り出し長さは支持フレーム14の相互間隔よりも長く構成する。支持フレーム14の腕部15の中間部には階段状の屈曲部15aを形成する。支持フレーム14が柱材2と重なる収納位置に折り込んだ状態では、屈曲部15aの内側領域にある受入れスペースX、Yに、隣接している他の支持フレーム14の一部が受入れられる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 互いに対向した一対の柱材が、踏み段となる複数本の横材によって連結されたタラップ本体と、前記一対の柱材の外側面に回動自在に支持され、前記柱材に対して直角に張り出させた使用位置と前記タラップ本体と重なる収納位置との間を移動可能であり、前記使用位置において前記タラップの昇降領域を囲むような枠状の支持フレームであって、該支持フレームは前記柱材の長手方向に沿って所定間隔で複数配設され、かつ前記支持フレームの張り出し長さが支持フレームの相互間隔よりも長くされた前記支持フレームと、前記収納位置において前記柱材と重なる前記支持フレームの腕部の中間部に形成され、前記支持フレームの張り出し状態でみてその先端側に向かって一段下がり

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、折畳み式の支持フレームを有するタラップに関する。

【0002】

【従来の技術とその課題】 作業者が昇降する昇降領域を囲むように、枠状の支持フレームを取り付けたタラップが既に提案されている。

【0003】 このタラップの支持フレームは、できるだけ間隔を密にして配設して十分な安全性を確保する必要があるが、他方、作業者の背中側に適度の余裕ができるように、一定の長さも必要である。この2つの必要性を共に満足させると支持フレームを折り畳んだときの支持フレーム相互が干渉してコンパクトな折畳み状態が実現できない。

【0004】 従って、支持フレームを折り畳んだ場合の支持フレーム相互の干渉をいかに解消するかが重要な課題とされている。

【0005】

【課題を解決するための手段】 この課題を解決するため、本発明に係る折畳み式の支持フレームを有するタラップは、互いに対向した一対の柱材が、踏み段となる複数本の横材によって連結されたタラップ本体と、前述した一対の柱材の外側面に回動自在に支持され、前述した柱材に対して直角に張り出させた使用位置と前述したタラップ本体と重なる収納位置との間を移動可能であり、前述した使用位置において前述したタラップの昇降領域を囲むような枠状の支持フレームであって、この支持フレームは前述した柱材の長手方向に沿って所定間隔で複数配設され、かつ前述した支持フレームの張り出し長さ

20

2

が支持フレームの相互間隔よりも長くされた前述した支持フレームと、前述した収納位置において前述した柱材と重なる前述した支持フレームの腕部の中間部に形成され、前述した支持フレームの張り出し状態でみてその先端側に向かって一段下がり

【0006】

【作用】 タラップを使用しない時は、支持フレームの腕部をタラップ本体に沿う位置まで回転させて折り畳む。一つの支持フレームの屈曲部の内側領域の受入れスペースには、これと隣接する他の支持フレームの一部が受け入れられる。このようにして支持フレームを収納すると、支持フレームは柱材とほぼ面一になる。

【0007】 作業者がタラップを昇降する時は、すべての支持フレームを回動させて柱材に対して直角位置まで張り出させる。この支持フレーム内の昇降領域に作業者が入ることにより、作業者が昇降する時に横材から不測に手を滑らせて上体が後方に倒れ転落するのを未然に防止できる。

【0008】 また、タラップの所定箇所

【0009】

【実施例】 次に、図1乃至図6を参照しながら本発明の一実施例を説明する。この折畳み式の支持フレームを有するタラップ1は、図1及び図2に示すように、互いに対向した一対の柱材2を踏み段となる複数本の横材3・・・・によって連結したタラップ本体4を備える。この柱材2の上端裏面2aには、梯子や電線等に引っ掛けるためのフック5を形成する。柱材2の外側面2bには、図6に示すように、強度を向上させるための段部6が形成され、横材3の端部3aを隠すように、柱材2の外側に支持板8を取付ける。この支持板8の取付け強度を増すために支持板8に補強板10を被せて固定する。補強板10には、後述する支持フレーム14が柱材2に対して直角の位置で固定できるようにストッパ12を取り付ける。

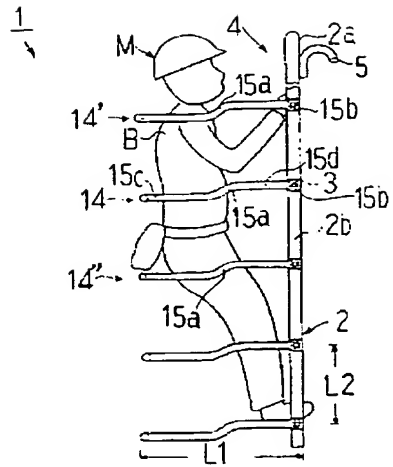
30

40

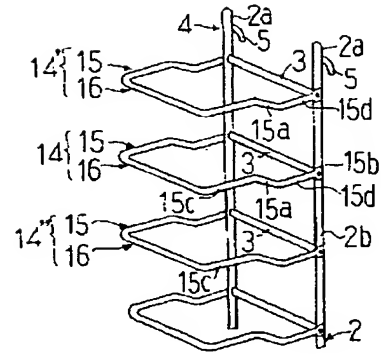
50

【0010】 前述した一対の柱材2に取付けた支持板8には、柱材2に対し直角に張り出させた使用位置とタラップ本体4と重なる収納位置との間を移動可能な支持フレーム14を複数設ける。支持フレーム14は、タラップ1の昇降領域を囲むように全体として平面略「コ」字形状をなし、両側の互いに平行な2本の腕部15、15が支持部16で連結されている。この支持フレーム14の腕部15の張り出し長さL1は、支持フレーム14の

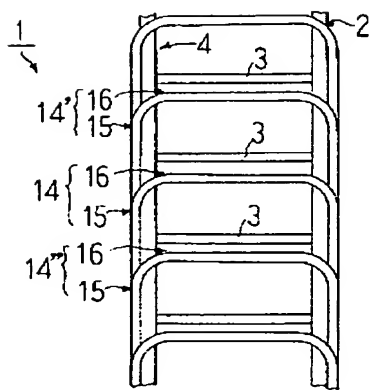
【図1】



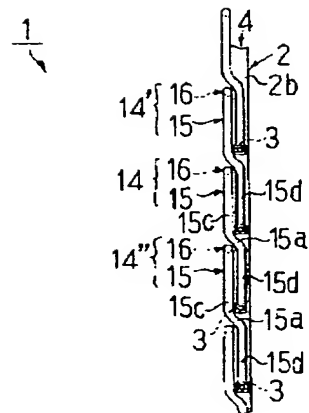
【図2】



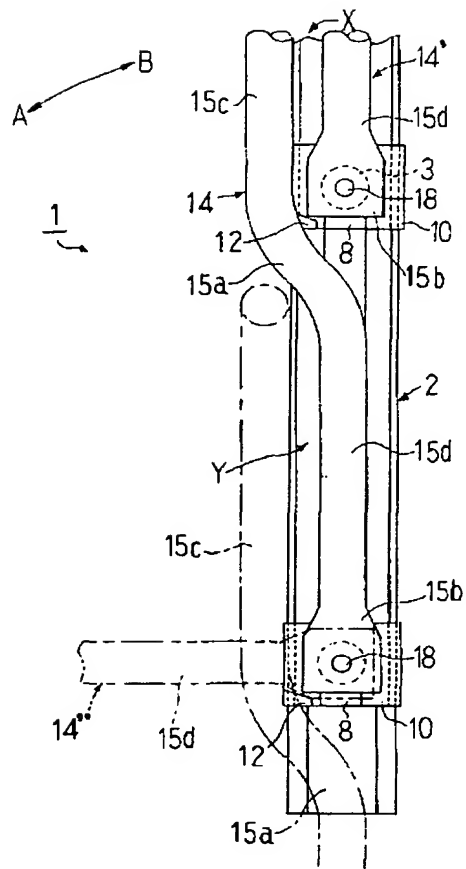
【図3】



【図4】



【図 5】



【図 6】

